

## 1 日目

釜山の金海国際空港につき出口に向かって歩いていると、英語で県看生かと尋ねられ、蔚山大学の先生お二人と会いました。すぐに二人の運転で蔚山に向かい始め、車内では自己紹介や先月の大分での交流の様子などを話しました。普段なじみのない右車線と高層ビル群に後部座席では日本語で興奮していました。もうすぐ着くと言われ外を見ると、道は少し上り坂になってきましたが山っぽさはありません。釜山やソウルと比べて知識がなく漢字表記から勝手に田舎をイメージしていましたが大きく間違っており、ビル、住宅街、明るい商店、多数の車線…と蔚山は都市部でした。お店の駐車場で蔚山大学の学生交流メンバー二人が待っていており、お互いを認識しあって手を振りあうとすぐに緊張はほぐれました。学生全員がそろると、学校のこと、夏休みは何をして過ごしていたのか、今回の交流日程には残念ながら参加できなくなってしまったメンバーについて話しました。今日初めて会う蔚山大学のメンバーもいたのですが、事前に大分でとった写真を見ていろいろな話を聞いていたらしく、県看メンバーの顔と名前をすでに覚えていてくれました。先生方がそろい、県看からは崔先生も合流してくださりみんなで夕食を食べました。名前だけは聞いたことのあるサムゲタンを初めて食べ、熱い料理、銀色の箸（材質は銀、真鍮、ステンレスなどらしい）、当然のように小皿で並ぶキムチやししとうに韓国っぽさを感じました。鶏肉の中にもち米や棗が入っていたのに驚きました。これは何かと質問するたびに、日本語を話せるメンバーと通訳アプリを駆使して教えてくれました。食後のお茶が県看メンバーは好き嫌いが分かれたのが面白かったです。

その後寮に移動する途中、一周ぐると大学構内を車で案内してくださり、その広さにすぐく驚きました。明日以降迷子にならないように気を付けないといけません。私たちが泊まるのは国際寮で、留学や交流事業などで蔚山大学を訪れる海外の学生が寮生活を送るところでした。張り紙や名簿には日本人名や日本の大学名もあり、エレベーターを使用するにあたり学生証をお借りした学生さんもなんと日本の方でした。部屋は机、ベッド、シャワー、トイレなどがそろっており、日本と異なると感じたのはトイレとシャワーの仕切りが何もないこと、冷房の設定温度（体感温度）、コンセントの形状などです。お風呂に入るとトイレや洗面台を含め床がびしょびしょになってしまうのですが、後日尋ねると寮生はいつも自然に乾燥するのを待っているそうです。施設の説明やトイレトペーパー、Wi-Fiの手配など事細かに配慮してくださりありがたかったです。身支度を終え Wi-Fi 環境も整うと、同じく寮の自室に戻った蔚山大学のメンバーから多くの連絡が来ており、何か困ったことはないか、必要なものがあればすぐに届けに行ける、といったメッセージをもらいました。とてもあたたかく、うれしかったです。

2017年 8月22(日)

Place : University of Ulsan (蔚山大学),Public Health Care Center (保健所)

3年 K・A

午前中、私たちは蔚山大学の図書館にある会議室へ行き、ウェルカムセレモニーをしていただきました。蔚山大学の学生による大分で交流した時に体験したことの発表があったり、教授たちによる韓国の看護師や助産師などの活動を学ばせていただきました。韓国の看護師になるための条件や韓国で看護師として働くには日本の看護師免許は使えず韓国の看護師国家試験を受験し合格しなければならないことなど韓国の看護や保険システムについて学ぶことができました。また、蔚山大学の1年生が参加しており、来年度、この学生交流に参加したいと日本語と英語を勉強している学生でした。とても仲良くしていただき、その後も楽しくお話することができました。

その後蔚山大学付近にある料理店で昼食にゴンドレ山菜を食べました。いろいろなおかずがあり、おいしかったです。



一緒に食べる中で、韓国の看護師は TOEIC が必要であることが分かりました。小さい時から英語を習うことが韓国では当たり前であること、TOEIC の点数が就職において韓国ではかなり重要なものであることなどを知りました。日本でも英語教育は現在やっと進歩してきて、小学校でも英語が入って

きたが、今回交流して、韓国の英語教育がとても進歩しているということを学ぶことができました。また韓国では国内での就職が厳しかったり、海外に出て活動する看護師も多いという話を聞き、英語の重要度の違いが分かりました。日本と韓国の英語教育の差や英語を学ぶ積極性の違いを感じ、自身も交流した韓国の学生さんを見習おうと思いました。

そして午後は保健所に行ってきました。保健所の中に歯科衛生の為の機械がそろっていたり、母子健診の部署、感染症、認知症等の部署等様々な所がありました。施設内に歯科医療機器があり、そこで検査や処置ができる所には驚かされました。認知症の高齢者の為のイベントの企画や利用する部屋内の写真や作った作品等見させていただきました。日本の保健所同様に健康教育の計画や母子保健や感染症、高齢者の健康等、活動されていることを学ぶことができました。

他には蔚山大学校内を周り、カフェがあったり、大学付近にはお店がたくさん集まっており、必要なものはすぐに買いに行けるなど、とても都会であり便利な地域にあることが分かりました。

よって、韓国の看護や医療について、韓国の保健所の働きなど学ぶことができました。この交流で英語能力について、私はもっと勉強しなければならないことを再確認し、モチベーションの向上につながりました。お互いの大学の実習や試験についてお話しし、韓国にも同じ勉強を頑張っている仲間がいることを知り、私もこれからは看護の勉強を頑張ろうと思いました。とても楽しい時間を過ごし、また沢山の学びを得ることができました。ありがとうございました。

2017年8月23日 滞在3日目

本日は「Ulsan University Hospital (蔚山大学病院)」と「Hyundai Heavy Industries (現代重工業)」に訪問させて頂きました。

蔚山大学病院は敷地面積約8万5千坪、計2,704病床を有する韓国国内最大級の病院です。また、最新の先端医療装備を備えており、韓国の医療発展をリードしているとの事でした。私達は手術室や病室、ICU、救命救急センターを見学させて頂きました。説明は蔚山大学の日本に留学経験のある学生が通訳をして下さり細かく韓国の病院について知る事が出来ました。

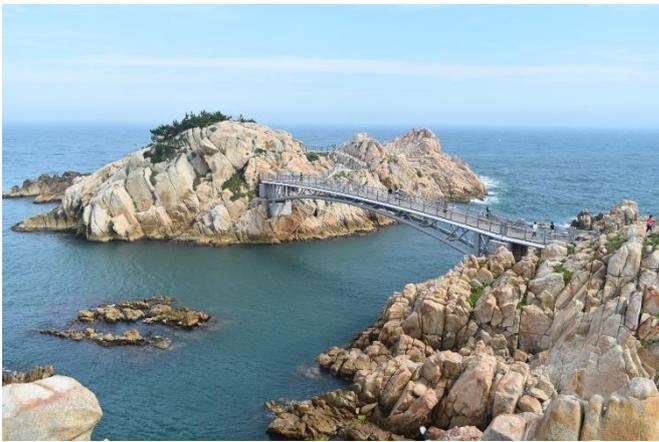
蔚山は韓国を代表する工業都市です。そのため、蔚山には工場で働く人が多くいます。工場では騒音による騒音性難聴などに罹患しやすくなっています。これらの職業病を早期発見し治療を目的とした専門の施設が蔚山大学にはありました。ここでは、熊本大学に勤めていた経験もある産業保健医の方から日本語で説明を聞く事ができ、日本と韓国の産業に対する制度の違いなどについて学ぶ事が出来ました。



午後は、現代重工業に訪問しました。ここは蔚山の観光スポットにもなっているようで現代重工業の歴史について学ぶ事が出来ました。造船所をバスで回り、船を造る工程を目の前に圧倒されました。

現代重工業を見学した後は、Daewangam Park (大王岩公園)に行きました。この公園は蔚山の東海岸に位置する公園でした。大王岩という名前は三国統一(7世紀)の偉業を成し遂げた新羅の文武王が死後に埋葬された所を意味しているらしく韓国客で溢れかえっていました。大王岩公園は駐車場から海岸までつながる約1キロメートルの遊歩道がありました。ここは急斜面が多かった事から先生方は行かず学生だけで頑張りました。蔚山の学生

とたくさんお話をしながら写真も撮り楽しみました。



滞在4日目（8月24日）

朝はバスで釜山の海東龍宮寺に行った。十二支の大きい石像があったり、金の豚の像や小さい人形などがあり、日本と違う寺を感じることができた。暑かったのでみんなでアイスを食べた。海が近くにあったので、海を眺めながらアイスを食べた。とても美味しかった。



昼は釜山にあるセンタムシティに行った。センタムシティはギネス登録されており、強大なショッピングモールであった。ギネス記録に登録されるだけあって、とても大きく、迷子になりそうだった。そこで昼食を韓国の学生と食べた。韓国の学生は私たちが食べたいものを探してくれ、韓国料理のビビンバやトッポギ、スンドゥ等を食べた。日本の料理と違った食文化を楽しむことができた。またショッピングをしたり、ゲームセンターがあったので、韓国の学生とゲームをした。ゲームしている間は言葉の壁を感じず、夢中でやった。

夕食はこの日で最後になるので、両国の先生、学生とみんなで食事をした。料理は韓国式料理だった。日本と違い、多くのおかずが並べられ、日本の食文化の違いを楽しみながら食事をした。日本のことや韓国のこと、好きなアニメ、歌手などをお互い話しながら食事をした。4日間すごく早く感じ、この夕食で最後かと思うと少し悲しかった。最後に先生、学生から一言ずつ挨拶をした。英語で挨拶をしたのでとても緊張した。違う言語で相手に伝えることはすごく難しいと感じた。

一度大学の寮に戻り、学生だけで二次会を行った。バーに行き、チキンを食べながらお酒を飲んだ。韓国式のビールと焼酎を合わせたメクチュと呼ばれるものを飲んだ。みんな少し酔っているためか、今まで以上に盛り上がった。とても楽しい時間を過ごした。この二次会で本当に最後だと思うととても寂しかった。しかし、また日本に来るとのことだったので、日本に来たらまた会いたいと思った。そして私たちが韓国に行って会いたいと思った。



この国際交流で韓国の医療や文化を直接目で見ることで、日本との違いを良く感じる事ができた。また、違う国の相手に言葉や思っていることを伝えることは難しかったが、それも楽しかった。この国際交流を通して、いい仲間と出会うことができたと思うため、この交流で留まらず、将来、日本か韓国で再会できたらいいなと思う。

学部3年 N.Y